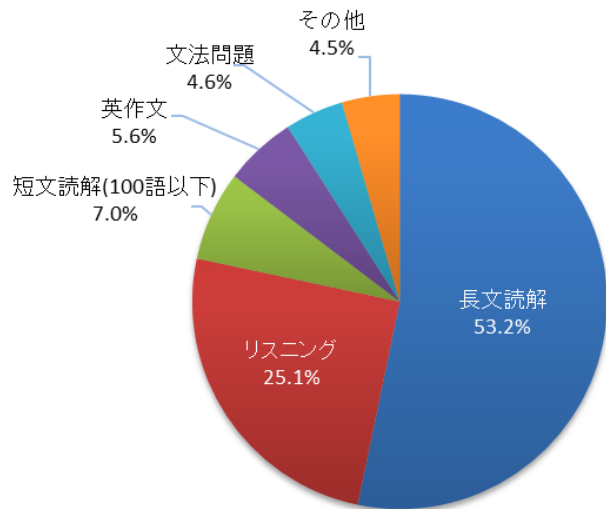


# 2022年 全国 公立高校入試の傾向 英語

## ① 全体の傾向 出題形式別の配点率



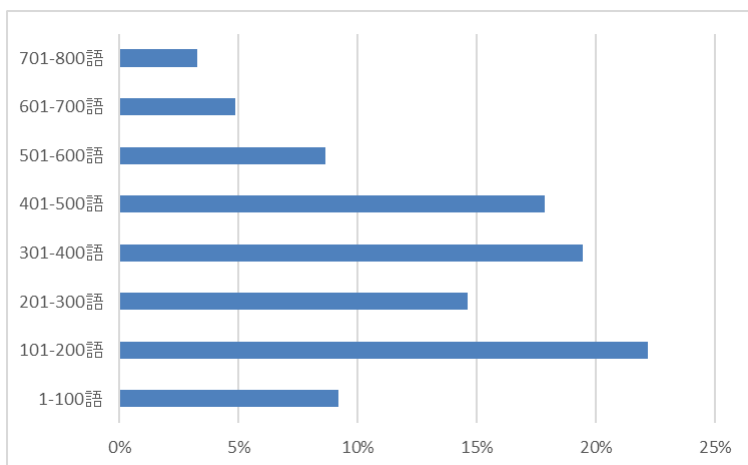
### 際立つ読解問題の重要性

長文読解の配点率が50%を超え、短文読解も含めると読解問題は約60%を占めています。文章の意味が分かるだけでなく、文章とともに複数の資料を読み取ったり、要旨をまとめたりする難易度が高めの問題も、より一般化しています。

### リスニング問題は難化傾向

読解に続くウェイトを占めるリスニング問題は、難化の傾向が見られます。聞き取った内容にあてはまるものを選ぶ従来型の問題に加え、話者の考えをくみ取ることが必要な問題など思考力を意識した問題がみられます。

## ② 長文・対話文 語数別の出題率



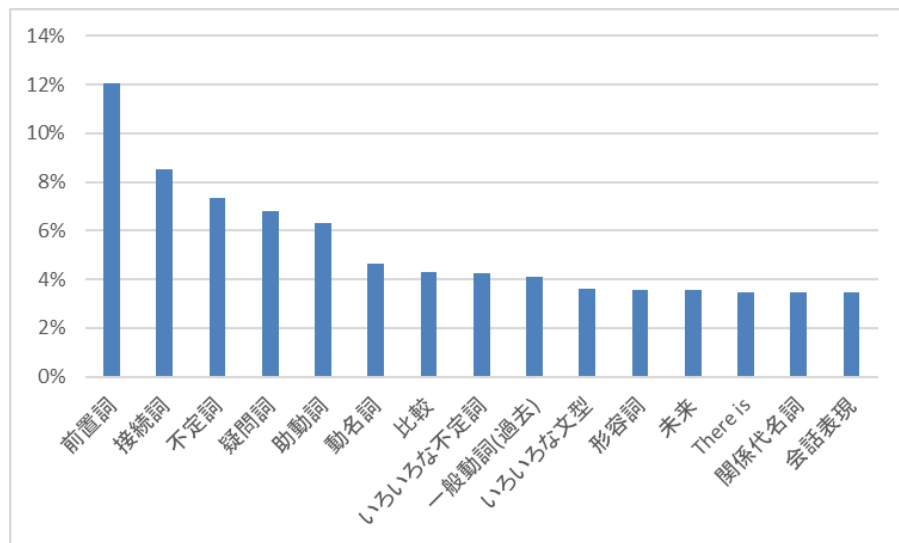
### 語数の異なる複数の長文が出題

どの都道府県でも、100～200語程度の短めの読解問題と300語以上の読解問題が複数出題されることがほとんどです。短めの読解でも決して難易度が低いわけではなく、資料読解といったいわゆる思考力系の問題も少なくありません。400語以上の読解になると、時間内にすばやく正確に文章を読み取る力が求められます。問題を解く時間を日ごろから意識して対策を行うことが重要です。

★次ページでおおすすめの受験対策教材を紹介しています！

# 2022年 全国 公立高校入試の傾向 英語

## ③ 文法 項目別出題率 Best 15



### 1～2年で学習する文法がカギ

問題を解くためのポイントとなる文法事項は、1～2年範囲のものが多数を占めています。読解問題を解くうえでも文法の理解は必須です。文法に不安がある場合、まずは1～2年の復習を重点的に行ってベースを固め、そのうえで3年の内容に取り組みましょう。

### 新指導要領で新たに加わった文法も出題

現在完了進行形、原形不定詞、仮定法など、新指導要領で新たに加わった文法事項も扱われています。文法問題として出題される頻度は決して高くはありませんが、入試で高得点を目指すなら漏れのないようにしっかり学習しておきましょう。

## 受験対策おすすめ教材

### 『長文問題の完成』

入試長文に語数と目標時間を表示。すばやく読み内容を正確に把握する力を着実に養うことができます。

### 『リスニングの完成』

入試頻出の出題パターンや英語の読み上げ速度に慣れることで、リスニングの得点力強化を目指します。

### 『ウイニングフィニッシュ』

3年間の学習内容の総まとめはもちろん、入試レベルの実戦問題にも取り組むことができます。